

Illustratorアピランス道



鷹野 雅弘(スイッチ)

Illustratorにはバージョン8.0まで「塗りと線は1つずつ。線は塗りよりも上」というシバリがありましたが、2000年にリリースされたバージョン9.0以降、「複数の塗りや線を追加して順番変更が可能。オブジェクト全体はもちろん、塗りや線ごとに不透明度の変更可能。後から再編集可能なフィルターを“効果”として適用可能」として拡張しました（「透明」と総称されることもあります）。

当初は、印刷でのトラブルが続出したため、“[効果]メニューや[アピランス]パネルでの操作を禁止”する現場もありましたが、15年たった現在、出力環境が変わっただけでなく、アピランスに関するノウハウも大きく変わっています。このセッションでは、制作現場で「ここで使うと役立つ」サンプルを通して、アピランスの基本から、応用ワザまで体系的に解説します。

- 1 [角丸長方形ツール]を使わずに直しに強い角丸長方形を作成する 14
- 2 アピランスを使って、フチ文字をひとつのテキストで作成する 20
- 3 テキストに同一形状の「囲み」をつける 26
- 4 自動で伸縮するポストイット風メモを作る 29
- 5 消し値を付け直す手間をなくす 34
- 6 行数に応じて縦に伸びる飾り罫を付けるには 35
- 7 特定のレイヤーに入力するテキストすべてに白フチを付ける 36
- 8 異なる幅の道路を、修正できるように結合する 37
- 9 アウトライン化したり、●を重ねず黒丸数字のマドを埋める 38
- 10 配置画像に白フチを付けたり、ポラロイド風に加工する 39
- 11 Creative Cloudの進化(カラーやスタイルの共有、アセット、ファイル共有、アプリ群)

Macでのキー表記にて記述しています。

Windowsユーザーの方は、次の表を参考に読み替えてください。

Mac	Windows
キー	Ctrl キー
キー	Alt キー
キー	Shift キー
+ クリック	右クリック
キー	Enter キー

Mac OSでのメニューバーでは、キーボードは次のように表示されます。

表記	キー
command キー	
option キー	
shift キー	
control キー	
enter キー	
esc キー	
fn キー (MacBook)	fn

フォローアップ

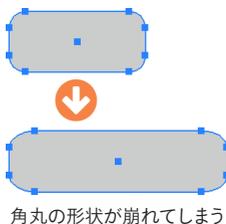
<http://www.dtp-transit.jp/>

ムラなく、モレなく、
直しに強く
手数を少なく、美しく

[角丸長方形ツール]を使わずに直しに強い角丸長方形を作成する

Illustratorの基本ツールのひとつである[角丸長方形ツール]ですが、次の観点から、他の方法で角丸を実現するのが理想的でしょう。

- 後から角丸(角R)の半径の大きさを調整できない
- バウンディングボックスを使って変形すると、角丸の形状が崩れてしまう



角丸の形状が崩れてしまう

[角を丸くする]効果を使う

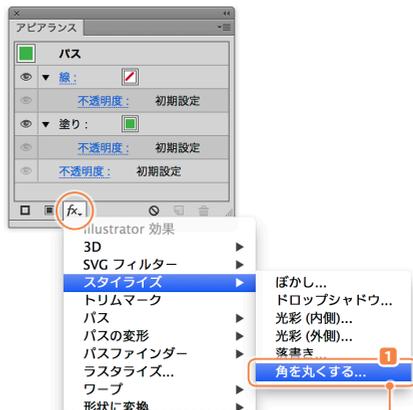
後から修正できるように、角丸の表現には[角を丸くする]効果を使います。

1. オブジェクトを選択し、[アピアランス]パネルのfxをクリックして、[スタイル]→[角を丸くする]をクリックする ①
2. [角を丸くする]ダイアログボックスが開くので、[半径]を入力する ②



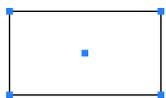
効果適用前

[角を丸くする]効果を適用



効果を適用することをアピアランスと呼びます。

効果を適用すると、実際のパスはそのまま、見た目だけが変わります。



アウトライン表示に変更するとパスが変わっていないことを確認できる

“効果”は、「フィルタ」を仮の状態で適用しているといえます。[フィルタ]メニューは、Illustrator CS4から撤廃されました。

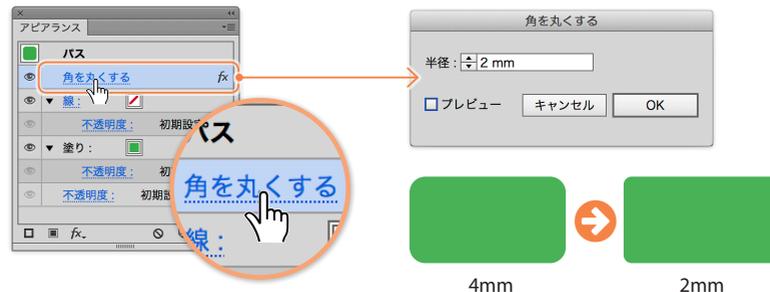
[効果]メニューを利用する

効果の適用は、[アピアランス]パネルからだけでなく、[効果]メニューからも同様に行うことができます。



角丸の半径を後から修正する

適用した効果は後から修正が可能です。[アピアランス]パネルに表示される効果名をクリックすると、ダイアログボックスを([OK]ボタンをクリックして)閉じるときの値が表示されるので、これを修正します。この操作は何度でも繰り返すことができます。



一時的に効果をOFFにする

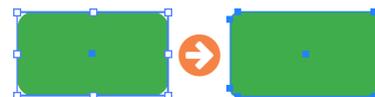
[アピアランス]パネルには[レイヤー]パネルの表示/非表示と同様の目のアイコン(👁)がついています。これをクリックすることでアピアランス(効果)を一時的にOFFにしたり、再度ONにすることができます。

ごくまれに、目のアイコンを非表示にしているとき、クリックできなくなることがあります。その場合には、ほかのアイコンを操作するなどしてから改めてトライしてみてください。



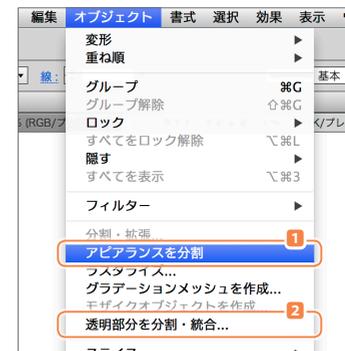
実際にパスを変更する

実際のパスを変化させたい場合には、[オブジェクト]メニューの[アピアランスを分割]を実行します。



[アピアランスを分割]を実行すると①、効果は失われ、角丸の半径を変更することはできなくなります。つまり、[角丸長方形ツール]で描いたのと同じ状態になります。

なお、効果の組み合わせによっては[透明部分を分割・統合]コマンドを利用します②。



ライブコーナーとライブシェイプ

Illustrator CCの「ライブコーナー」やIllustrator CC 2014からの「ライブシェイプ」を使うと、[角を丸くする]効果を使わずに角丸を実現できます(詳しくは61ページを参照)。ただし、ライブコーナーは、グラフィックスタイルに登録できないなどの制限があります。一長一短ですので、用途に応じて使い分けましょう。

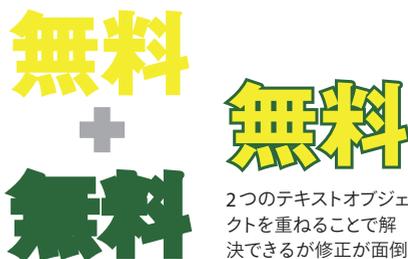
アピアランスを使って、フチ文字をひとつのテキストで作成する

Illustratorのオブジェクトは「塗り」よりも「線」が前面にあるため、テキストの「線」に、塗りと同じカラーを設定するとやせてしまいます(=「塗り」の範囲が小さくなってしまいます)。

そのため、Illustrator 8.0までは、フチ文字を作成するのに、塗りだけのテキストを同じ座標に「背面にペースト」し、そのオブジェクトの線を太くする方法が一般的でした。しかし、修正したいときには複数のテキストを変更しなければなりません。Illustratorのアピアランス機能を使えば、ひとつのテキストオブジェクトでフチ文字を設定できる、直しに強いデータになります。



文字に線を設定すると、塗りが「やせて」しまう



2つのテキストオブジェクトを重ねることで解決できるが修正が面倒

Illustrator 8.0までの方法

フチ文字の作成手順

1. テキストを入力する



2. 塗りと線を「なし」に設定する



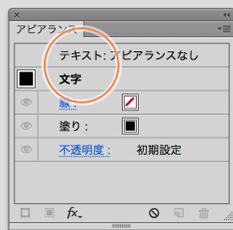
見かけ上、テキストは透明になる

「テキスト」と「文字」

[アピアランス]パネルには、「テキスト」と「文字」があります。

ポイント文字、エリア内文字など、オブジェクトとして扱うときは「テキスト」。1文字単位で扱うときには「文字」(character)です。

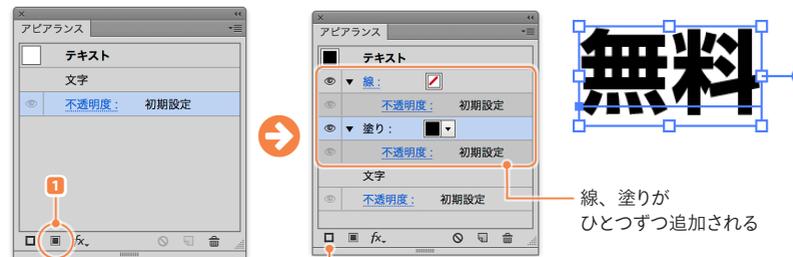
言い換えれば、「文字」の集合が「テキスト」です。



文字にアピアランスを設定する前には、次の理由から塗りと線をなしにしておきましょう。

- 1文字単位の塗り／線とは別に、テキストオブジェクト全体の塗り／線が混在するのは紛らわしく、修正時のミスにつながりやすい
- 1文字単位の塗り／線を設定しても、テキストオブジェクト全体の塗り／線が優先されてしまうので、設定することがムダ
- 1文字単位の塗りが設定されている上で、アピアランスで塗りにスミ(K100)を設定したものをアウトライン化した場合、ブラックオーバープリントが適用されると意図せぬ色になってしまう

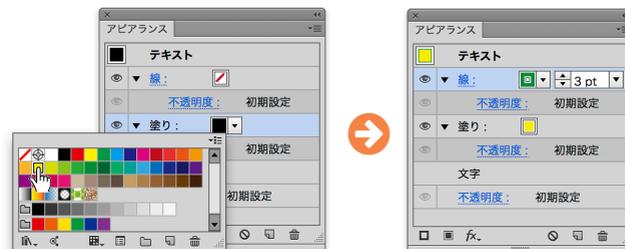
3. [アピアランス]パネル下部の [新規塗りを追加] ボタンをクリックする ①



[新規塗りを追加] ボタンをクリックしても線、塗りがひとつずつ追加される

[アピアランス]パネル上の線や塗りは、「線アピアランス」、「塗りアピアランス」と呼びます。

4. 塗りのカラー、線のカラー、線幅を設定する



線が前面にあるため、塗りが「やせて」しまう

5. [アピアランス]パネルで、線アピアランスを塗りアピアランスよりも下に移動する ②



線アピアランスをドラッグして[塗り]の上に移動



塗りが前面(上)になったため、線の太さは1/2で表示される

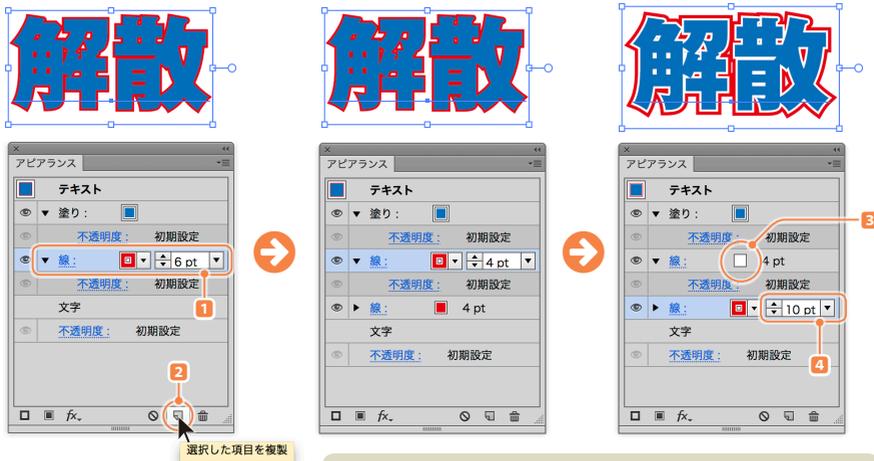


[新規塗りを追加]、[新規線を追加]にはキーボードショートカットが用意されています。

	Mac	Windows
新規塗りを追加	⌘ + [Z]	Ctrl + [Z]
新規線を追加	⌘ + Option + [Z]	Ctrl + Alt + [Z]

二重のフチ文字 (スポーツ新聞文字)

新規アイテムを作成することを意味する は、[アピアランス]パネル(と[グラフィックスタイル])では[選択した項目を複製]ボタンとして機能します。

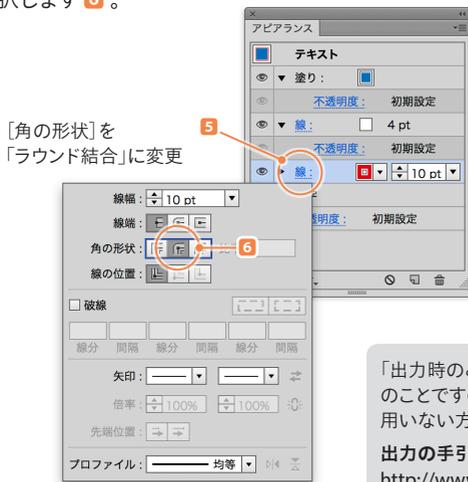


線アピアランスを選択し **1**、 をクリック **2** することで線アピアランスが複製されますので、内側を白に変更 **3**、外側(最背面)の線幅を太らせて **4**、二重のフチ文字を設定します。

角を丸める

フォントや線幅によって“ツノ”が生じてしまうことがあります。媒体(使いどころ)にもよりますが、[角の形状]を変更して角を丸めておくとよいでしょう。

「線」という文字をクリック **5** すると[線]パネルが表示されますので、[角の形状]に「ラウンド結合」を選択します **6**。



「出力時のみに“ツノ”が生じてしまう」というトラブルもあるとのことですので、その面からもデフォルトの「マイター結合」は用いない方が賢明です。

出力の手引きWeb
http://www.screen.co.jp/ga_dtp/dtp/guideline15/20140522_miter_character.html

擬似的な立体的な表現

スポーツ新聞の見出しなどによく使われている手法で、簡易的に立体感を表現します。



1. キンアカの線を少し太くし **1**、[変形]効果を追加 **2**
2. [プレビュー]にチェックをつけ **3**、効果のかり具合(移動距離)を確認しながら、「水平方向: 0.7 mm、垂直方向: 0.7 mm」のように正の値を入れる **4**

キンアカの線が右下45°に移動し、少し立体的な表現に



設定したアピアランスを「グラフィックスタイル」に登録しておけば、後から再利用可能です(64ページ参照)。

スミ文字のオーバープリントを回避する

アピアランスでスミ文字(文字色: 黒)を設定している場合、出力の際、自動オーバープリントがかかってしまい、**5**のように塗りにかかる線(の内側)が影響してしまいます。このような場合には、「K100」を「K100+C1」や「C60M40Y40K100」のように設定して回避します。



5 極端に表現すると、このように濃度が一定にならない(ことがある)
 アピアランスを分解するとこのようになっている

さらに、塗りアピアランスを追加し、線と同じカラーに設定する方法もあります。



K100にCMYの色を混ぜたものは「リッチブラック」と呼ばれる

テキストに 同一形状の「囲み」をつける

CS5 CS6 CC CC2014

テキストに対して同じ大きさの「囲み」(囲み罫)をつけることを考えてみましょう。

テキストとは別に図形として枠を描く場合、テキストが増えたり、フォントサイズが変わった場合など、修正が面倒です。

アピアランスを使って、直ちに柔軟に対応できる「囲み」を考えてみます。

久木野 修平

河口 晴夏

下川 太一

坂入 悠子

窪田 礼

久木野 修平

河口 晴夏

下川 太一

坂入 悠子

窪田 礼

久木野 修平

河口 晴夏

下川 太一

坂入 悠子

窪田 礼

[形状に変換] 効果

そこで[形状に変換]効果を使います。

線アピアランス(または「塗りアピアランス」)に対して[形状に変換]効果を実行すると、強制的に図形化されます。

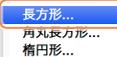
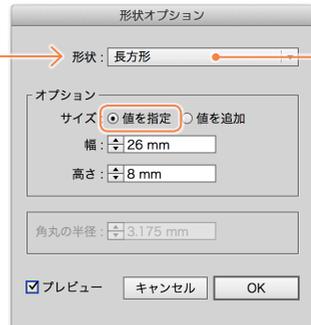
久木野 修平



久木野 修平

名前を扱うときには、文字数の一番多いものを使って作業を進めると、調整の手間が省略できます。

[形状に変換]効果を使って線アピアランスを強制的に「枠」にした

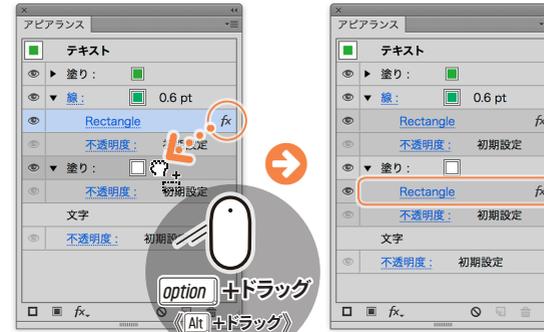


[形状オプション]ダイアログボックスでいつでも変更できるので、効果を設定するときのメニューはどれを選んでおいてもよい

効果の複製

枠だけの場合、右図のように背面に接続線を描くと透けてしまいます。

塗りアピアランスにも同様の効果を適用するには、線アピアランスに設定した効果を **option** + ドラッグ (**Alt** + ドラッグ) します。



久木野 修平

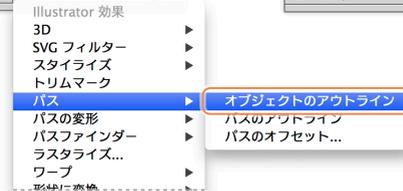
河口 晴夏

[形状に変換]効果は、[アピアランス]パネル上で「Rectangle」と表示されてしまうバグがあります (Mac版のみ)。

ベースラインの調整

デフォルトのままでは文字が上方向に寄ってしまいますが、ベースラインの移動では四角形も移動してしまうため対応できません。回避方法のひとつに、[オブジェクトのアウトライン]効果を使う方法があります。

枠を上方向にずらすのではなく、[変形]効果を使って文字(一番上の[塗り])を下にずらす解決方法もあります。



[オブジェクトのアウトライン]効果が続けて、[形状に変換(長方形)]効果が適用されるように、効果の順番を変更しておく

[オブジェクトのアウトライン]は、テキストの「アウトラインを作成」の効果バージョンです。実際にテキストをアウトライン化するのではなく、「アウトライン化されたパス」として扱います。



調整前

調整後

角丸に変更する

[形状に変換]効果は、後から「角丸長方形」(や「楕円形」)に変更することができます。

「Rectangle」(長方形)をクリック①し、「形状オプション」ダイアログボックスで[形状]に「角丸長方形」を選択②、「角丸の半径」を調整③します。

久木野 修平

久木野 修平

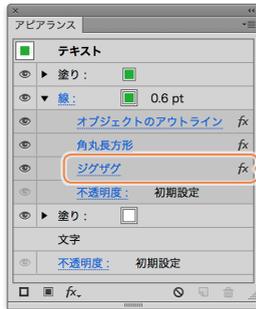


塗りアピアランスにも同様の設定を行う(設定を変更するか、いったん捨ててから効果を複製する)

面取り

角を「面取り」するには、角丸長方形に対して[ジグザグ]効果を加えます。

久木野 修平

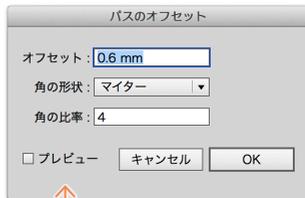


[ジグザグ]効果を適用するには[アピアランス]パネルの[fx]をクリックして[パスの変形]→[ジグザグ]をクリックする

二重線

二重線にするには、線アピアランスを複製し、[パスのオフセット]効果を適用します。

久木野 修平



塗りアピアランスにも同様の設定を行う(設定を変更するか、効果を複製する)

008

CS5 CS6 CC CC2014

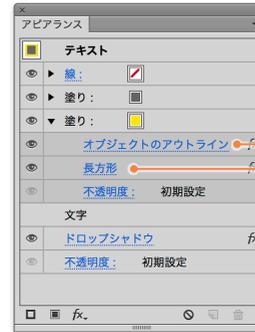
自動で伸縮する ポストイット風メモを作る

ポストイット風の表現を行いたいとき、背景の黄色い四角形を別オブジェクトで作成していると、文字が増減したときに四角形の大きさを変更しなければなりません。

[形状に変換]効果を使うことで、文字の増減に応じて自動で伸縮するオブジェクトを作成することができます。

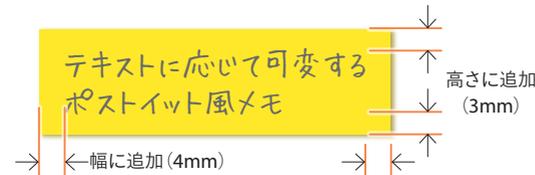
テキストに応じて可変する
ポストイット風メモ

テキストに応じて可変する
ポストイット風メモ



上下のアキを揃えるために、[オブジェクトのアウトライン]効果でテキストをアウトライン処理しておく

[形状に変換(長方形)]効果を適用し、[形状オプション]ダイアログボックスで[値を追加]オプションを選択し、[幅に追加]、[高さに追加]にそれぞれ値を入力する



応用例

[変形]効果や[ワープ]効果と組み合わせることで、次のような応用が可能です。

ドロップシャドウのバリエーションを組み合わせたり...

[変形]効果で、回転を加えてみたり

ワープ効果を使って右側だけ、めくれている感じを出してみたり

夜9時以降限定

夜9時以降
限定商品

平日15時まで限定

平日15時まで
特別価格でご提供

チラシやECサイトなどで用いられる「消し値」^{けお}。桁数やフォント、フォントサイズが変わるごとに「×」の部分をつけ直すのは面倒です。アピアランスを使って可変する「×」を実現できます。



不透明度を下げると、バツ印の下の数字が読みやすい

~~1,530円~~
~~980円~~

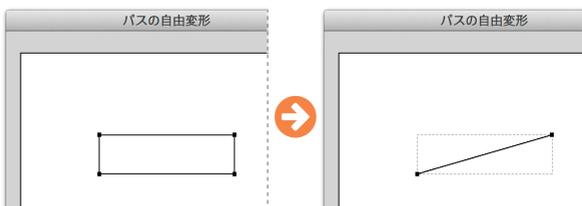
1. 線を追加し、[形状に変換(長方形)]で「値を追加」で「0」に設定します 1。

1,530円



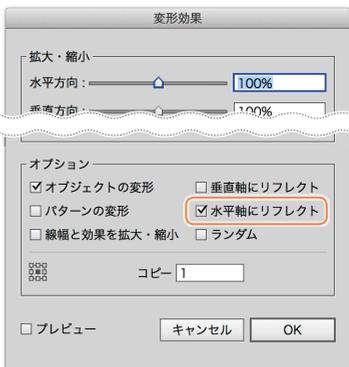
2. [パスの自由変形]効果を適用し、四角形を斜線のように変更します 2。

1,530円



3. [変形]効果の[水平軸にリフレクト]オプションにチェックを付け、[コピー]を「1」に設定することで、罫線が反転コピーされます 3。

~~1,530円~~



タイトルなどの装飾で、段落の左側に罫線をつけることがあります。テキストとは別に四角形で描いていると、行数が増減した際に手間がかかります。

アピアランスを使うことで、行数に応じて縦に伸びる飾り罫を実現できます。

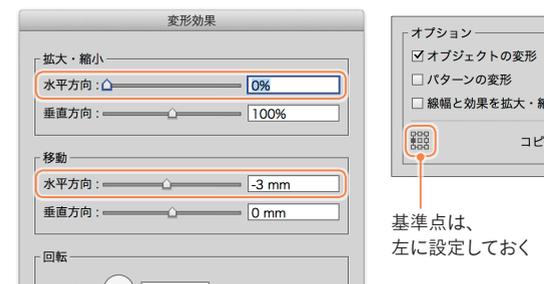
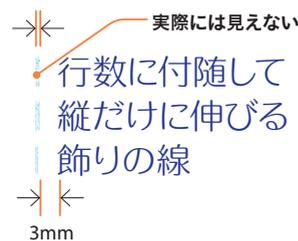
行数に付随して
縦だけに伸びる
飾りの線



行数に付随して
縦だけに伸びる飾りの線

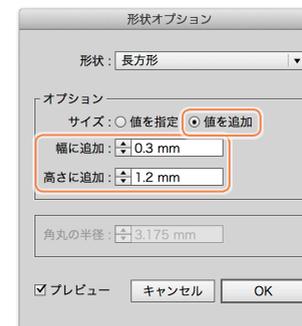
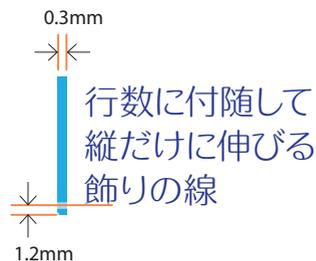


塗りを追加し、[変形]効果の[水平方向]を「0%」にすることで、テキストをベタとつぶします。また、[移動]を「-3mm」に設定することで、左方向へ3mm移動します 1。



基準点は、左に設定しておく

[形状に変換(長方形)]で「値を追加」を選択し、罫線にしたい大きさを指定します 2。



特定のレイヤーに入力する テキストすべてに白フチを付ける

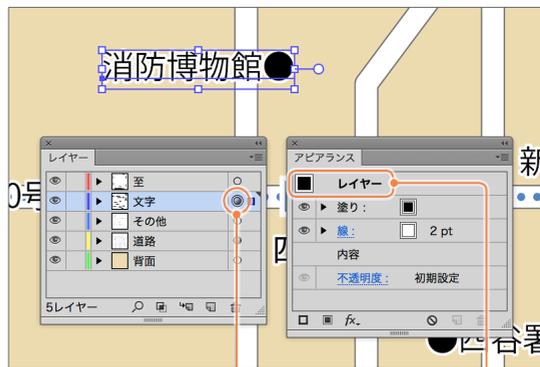
地図を作成する場合、文字に白フチを付けたり、道路の“幅出し”を行うの処理などが必要になります。レイヤーに対してアピアランスを適用することで効率的な制作フローを実現します。

レイヤー上のすべての文字に白フチを付ける

[レイヤー]パネルでアピアランスを設定したいレイヤー名の「○」をクリックします 1。

[アピアランス]パネルでは、対象が「レイヤー」と表示されるので 2、新規塗り／新規線を加え、白フチを設定します。

そのレイヤーにすでにあるテキストはもちろん、その後で作成するすべてのテキストに対して、このアピアランスが適用され、白フチとして処理されます。

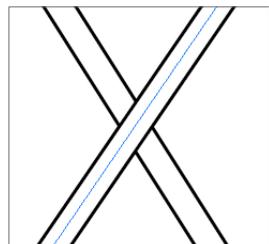


- 1 対象のレイヤーを選択 2 アピアランスの適用先が表示される

道路の“幅出し”

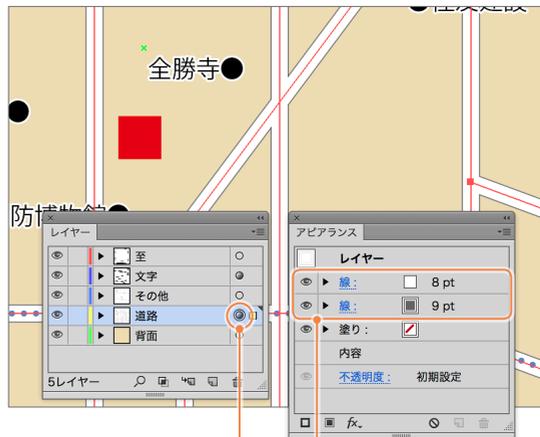
アピアランスを使わずに道路を作成する場合、レイヤーごと複製して、そのレイヤーすべての線幅と線のカラーを変更しますが、後からの追加や修正が面倒です。

1本の線ならオブジェクトへのアピアランス設定でも可能ですが、3のように交差する部分が不自然です。白フチ設定と同様、レイヤーに対してアピアランスを適用すれば解決します 4。



3 オブジェクトへのアピアランスを適用する場合、交差する部分が道路としては不適切

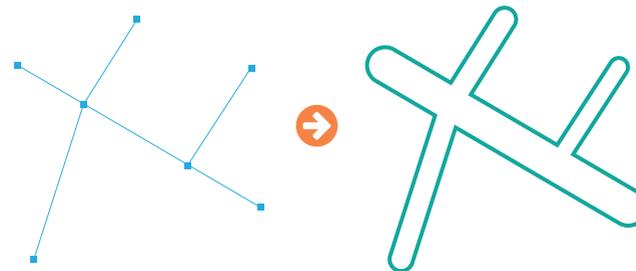
道路の幅が異なるケース（幹線道路と小道など）では対応できません。



- 4 対象のレイヤーを選択 ここでは結果として 0.5ptの線で表示される $0.5pt = (9pt - 8pt) / 2$

異なる幅の道路を、 修正できるように結合する

同じ幅の道路の場合には、レイヤーに対してアピアランスを設定するのがシンプルな方法です。一方、幅が異なる場合には、グループ化、または、サブレイヤーへのアピアランスを使った、多次元でのアピアランス設定を行います。



アピアランスの対象となるのは、パス、テキスト、グループ化されたオブジェクト、レイヤーです。

グループ化されたオブジェクト、レイヤーでは、マルチレベルでの適用が可能です。

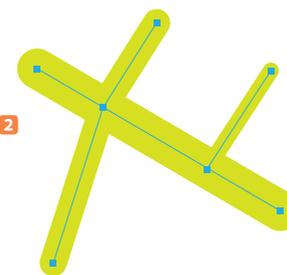
グループ化

それぞれの線

- 線のカラー、線幅を設定 1 (最終結果の塗りになる)
- [パスのアウトライン]効果を設定 2

グループ化

- 線のカラー、線幅を設定 3 (最終結果の線になる)
- 「内容」アピアランスを前面に 4



線をグループ化し、線アピアランスを追加



レイヤーのアピアランス

線幅の変更などの調整を行うには、レイヤーのアピアランスを組み合わせると操作がラクです。

パス(それぞれの線)

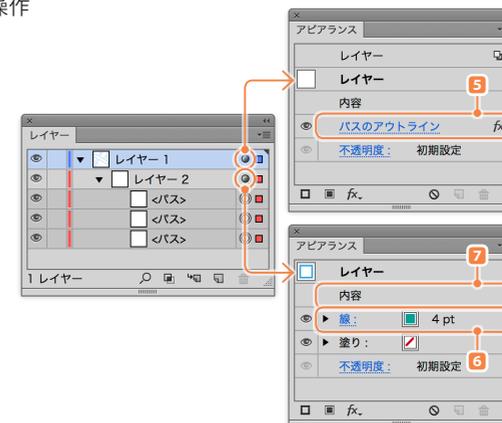
- 線のカラー、線幅を設定 (最終結果の塗りになる)

サブレベルのレイヤー

- [パスのアウトライン]効果を設定 5

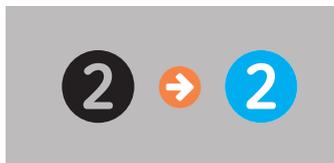
上位レベルのレイヤー

- 線のカラー、線幅を設定 6 (最終結果の線になる)
- 「内容」アピアランスを前面に 7



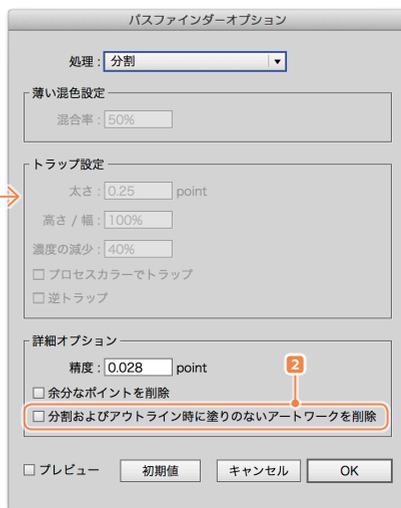
アウトライン化したり、●を重ねず黒丸数字のマドを埋める

黒丸数字などのマドの部分は、透明のために背景色が見えてしまいます。「●」を文字として入力して重ねるなどの処理を行うことがありますが、これをアピアランスで解決してみましょう。



設定手順

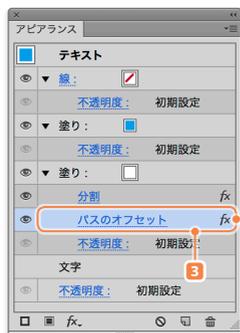
1. 新しい塗り(マド部分のカラー)を追加し、最背面に移動
2. [パスファインダー(分割)]効果を追加する
3. [パスファインダーオプション]ダイアログボックスで[分割およびアウトライン時に塗りのないアートワークを削除]オプションのチェックを外す



アピアランスを分割すると、最背面の塗りはアウトライン化した上で「マド」部分にも同じ塗りが設定されていることを確認できる

フチ

フチを付けたい場合には、最背面の塗りに[パスのオフセット]効果を適用します



下のような結果にしたいときには、線アピアランスに[パスのアウトライン]効果、[パスファインダー効果](分割、追加)を組み合わせます。

Create Create

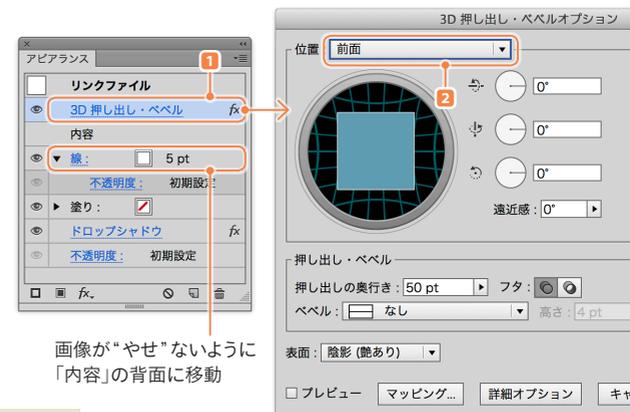


配置画像に白フチを付けたり、ポラロイド風加工する

配置した画像(リンク/埋め込み)に[ドロップシャドウ]効果は問題なくかかりますが、線アピアランスや、塗りアピアランスに[パスのオフセット]効果を設定しても、無視されてしまいます。クリッピングマスクを使わず、配置画像だけにフチを付けるテクニックです。

[3D]効果を利用

[3D(押し出し・ベベル)]効果を適用し1、[位置]を「前面」に設定すると2、線アピアランスの設定が反映されるようになります。



画像が「やせ」ないように「内容」の背面に移動



この手法は、クリッピングマスクを適用したのものにも適用できます。なお、クリッピングマスクをかけている場合にはマスクオブジェクトのみを選択して線を付けることができますが、画像の内側にも線幅が浸食します(パスの内側/外側は使えない)。

ポラロイド風

ポラロイド風の枠を付けるには、塗りアピアランスに対して[形状に変換(長方形)]効果で枠を付けて3、[変形]効果で下方向に移動します4。

